

漢詩

ちくりかん
「竹里館」
おうい
王維

ひとぎ
ひとり坐す
ゆうこう
幽篁の裏

きんだん
琴を弾じ
ま
復た長嘯す
ちようしよう

しんりん
深林
ひとし
人知らず

めいげつ
明月
き
来たりて
あいて
相照らす

とう
唐の王維
おうい
(六九九く七六一)
ごごんぜっく
の五言絶句。

げんじ あんせい つか おく
「元二の安西に使いを送る」

おうい
王維

いじょう ちやうう けいじん うるお
渭城の長雨 輕塵を浥し

かくしや せいせい りゆうしよくあらた
客舎 青々 柳色新なり

きみ すす さら いっぱい さけ つ
君に勧む 更に一杯の酒を尽くせ

にし ようかん いず こじん な
西のかた陽関を出づれば故人無からん

しちげんぜっく
*七言絶句。

らくゆうげん
「楽遊原」
りしやういん
李商隱

くれ なんな
晩に向んとして 意適わず
いかな

くるま か こげん のぼ
車を駆りて 古原に登る

せきよう むげん よ
夕陽 無限に好し

た こ こうこん ちか
只だ是れ黄昏に近し

とう りしやういん
*唐の李商隱（八一三〜八五八）の五言絶句。
ごごんぜっく

【参考資料】

- 『声に出してよむ漢詩の名作50』 莊魯迅／著 （平凡社）
『中國詩人選集 6 王維』 （岩波書店）
『中國詩人選集 15 李商隱』 （岩波書店）